

2014 年合格目標

外務専門職講座 再チャレンジガイド

担当：外務専門職講座担任講師 中尾大志

1. 再チャレンジをするにあたっての心構え

(1) もう 1 年受験勉強をする意味をよく考える。

- 自分にとって「外交官になる」意味をよく考える。

単なる「リベンジ」という意味で受験するのは危険。自分にとって「外交官になる」ことが今後の人生において必要不可欠であることをよく考え、自分の進路の方向性を明確に持った上で受験勉強に臨むこと。

- もう 1 年の勉強で、どのように成長したいのか、どう成長できるのかをよく考える。

「今年の自分よりも成長した自分で勝負する」ことが最低条件。自分にどれだけ「のびしろ」があるのかをよく考える。その「のびしろ」こそが、来年の最終合格の可能性を高める。

2. 今年の敗因を考える。

(1) 専門科目について

- ✓2013 年度試験では、専門 3 科目いずれも平均レベル以上の実力が求められた。

⇒何かひとつでも苦手科目があれば、それだけで大きく差をつけられる試験となった。

(2) 基礎能力試験について

- ✓今年の足切点は 17 点であった。

⇒今年の基礎能力試験は難化したため、足切点が 17 点と非常に低い水準となった。しかし、最終合格をとるためには、24 点以上は確保しておきたかった。

⇒文章理解で 11 点（11 点配点）、数的処理で 6 点以上（16 点配点）、一般知識で 7 点以上（13 点配点）の得点をとれる実力が求められた。

(3) 時事論文試験について

✓今年 は 4 年ぶりに国内時事からの出題であった。

⇒教養択一講義の時事対策，新聞やニュースのチェックを日ごろから行い，あらゆる社会情勢に対して，問題意識を持っていたかが勝負の分かれ目となった。国際時事にヤマを張っていると苦戦を強いられたであろう。

(4) 外国語試験について

✓今年 は英語が難化，外国語訳が全体的に難化した。

⇒時間配分が勝負の分かれ目になったとっていい。英語であれば，和訳問題第 2 問，英訳問題第 2 問を優先的に解くべきであった。

⇒とはいえ，問題レベルが非常に高かったことから，外国語試験では大きな差は生まれていないといえる。

(5) 二次試験について

✓例年通り，受験生の間で面接の内容・質に差が見られた。

⇒多くの受験生が一次の出来について問われたことから，一次試験で上位の成績を残せば残すほど，面接試験で有利にはたらくとっていい。

3. 来年の最終合格に向けて

(1) 現状をよく把握する。

- 「今の弱点はどこなのか?」, 「何を伸ばすべきなのか?」をよく把握した上で, 「今年足りなかったもの」を伸ばしていく。

(2) 受験戦略を考える。

- やみくもに受験勉強するのではなく, 「戦略」を持って対策をする。得意分野を維持しつつ苦手分野の補強をする, 新たな知識を増やしつつ今ある知識を固めて問題演習を重ねる, などの戦略を持って対策をすること。特に, 二次試験で敗退してしまった人は, 人物試験対策も視野に入れつつ, 対策を練ること。

⇒「どこに自分ののびしろがあるのか」をよく考えて対策をすること。

- 就職先を確保しなければならない人は併願戦略も今のうちから考えておく和良好的。主要な併願先(都庁, 国立大学法人, 防衛, 横浜市, 神戸市, 大阪市)については, 受験スケジュール, 試験科目を予め把握しておき, 併願先の確保についてもしっかりと検討しておくこと。

(3) 「現役生の $+\alpha$ 」を考える。

- 一般的に再チャレンジ生は, 現役生に比べて, 学力の面でののびしろが少ない。

⇒「現役生には出せない強みは何か?」をよく考えておくこと。